

3-2	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。	4：50% 3：50%	4：54.5% 3：45.5%		
3-3	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。	4：50% 3：40% 2：10%	4：54.5% 3：45.5%		
4-1	教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。	4：30% 3：70%	4：54.5% 3：45.5%	実習要項に明記し教員・学生間で共有している。実習会議で意見を出し合い教員の教育活動で困ったことなどを共有し指導方法などを検討していることから指針となっていると考える。	
4-2	看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。	4：30% 3：70%	4：45.5% 3：54.5%		
5-1	教育理念・教育目的は養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。	4：60% 3：40%	4：63.6% 3：36.4%	卒業時学生アンケートで「教育理念は自己の学習の指針になった」は「よく当てはまる」「大体当てはまる」で98.6%であった、また「専門学校としての特徴：専門的な知識・技術」は「よく当てはまる」「大体当てはまる」100%であった。「専門学校としての特徴：専門職業人としての態度が身につく」も100%であったことから明示し教育指導したことの結果であると考え	社会人基礎力について記述式で実施したため個人の評価内容は分かるが全体的な客観的評価として示すことができず活かすことができなかった。社会人基礎力チェックリストを用いて評価基準（期待される能力）から客観的なデータを収集し分析する。
5-2	卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	4：50% 3：50%	4：54.5% 3：45.5%		

II 教育目標

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1	教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	4：100%	4：90.9% 3：9.1%	学生便覧や実習要項、シラバスで明記し専任教員・実習指導教員・学生へ紙面で配布し説明している。取り組みは同じであるが、令和6年度は評価が4と3に分かれたが、合わせると100%となり、より具体的に評価した結果と考えられる。	
2-1	教育目標は、設定した教育内容を網羅している。	4：90% 3：10%	4：81.8% 3：18.2%	教育目標は学年別到達目標を定め、学生便覧や実習要項、シラバスに明記し、教育内容としている。進級時に評価の結果を教員・学生が共有し指導に活用している。	
2-2	教育目標は最上位の目標として、教育活動のゴールが読み取れるものとなっている。	4：100%	4：63.6% 3：36.4%		
3-1	教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。	4：70% 3：30%	4：72.7% 3：27.3%	終講試験や看護技術試験で到達レベルを確認し、教員・学生が共有している。進級時毎に評価の結果を指導に活用している。	
3-2	教育目標は、具体的に実現可能なものとなっている。	4：60% 3：40%	4：45.5% 3：54.5%		
4	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。	4：60% 3：40%	4：72.7% 3：27.3%	看護実践者としての能力を看護実践能力の構成要素を踏まえ構造図として表し「感じ、考え、行動する力」をコンセプトとして入学時より指針として学生に説明しカリキュラムポリシーから教育内容としている。	[3]の評価があることから教育歴の浅い教員に授業や演習、実習の教育活動に意識化し、授業や演習、実習の教員の教育活動に計画的に支援する体制を整える。
5	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	4：60% 3：40%	4：72.7% 3：27.3%	「Well-being～よりよい自分をめざして～」は看護の提供が看護学生から看護師へ自己の成長の指針となるように掲げている。	

Ⅲ 教育課程経営

<教育課程経営者の活動>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。	4：20% 3：80%	4：36.4% 3：54.5% 2：9.1%	教育理念に基づき教育目標の達成に向けて教育活動を実施している。教員は授業評価を行っている。	教育課程と授業評価の関連の分析や教員間の共有ができていない。 教員全体として教育課程の評価に取り組めるよう時間の確保と計画的に分析を行う。
1-2	教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。	4：20% 3：80%	4：36.4% 3：63.6%		

<教育課程編成の考え方とその具体的な構成>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	4：50% 3：50%	4：63.6% 3：36.4%	教育理念に基づき教育目標・学年別到達目標を設定し、学生の成長を看護実践能力の構造図として示すことで、カリキュラムポリシー（教育課程を編成）としてシラバスや実習要項に明記している。	
1-2	学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	4：50% 3：50%	4：63.6% 3：36.4%		
1-3	学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	4：50% 3：50%	4：45.5% 3：54.5%		

<科目、単元構成>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。	4：60% 3：40%	4：54.5% 3：45.5%	新カリキュラムになり科目などを見直し常に教育理念・目的、教育目標と整合性があるように考えた。 本学科が考える看護実践者の育成を考え「コミュニケーションと人間関係」「看護と形態機能学」「多職種連携と協働」の科目を新たに編成した。	
1-2	明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。	4：50% 3：50%	4：54.5% 3：45.5%		
1-3	科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。	4：50% 3：50%	4：54.5% 3：45.5%		
2-1	構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である。	4：60% 3：40%	4：72.7% 3：27.3%		
2-2	構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。	4：40% 3：50% 2：10%	4：54.5% 3：45.5%		

<教育計画>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。	4：50% 3：50%	4：63.6% 3：27.3% 2：9.1%	履修規定で明記しカリキュラムガイダンスや初回の講義や実習オリエンテーションで説明している。支援が必要な学生には履修途中でも本人や保護者にも説明し注意喚起している。	
1-2	単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。	4：50% 3：50%	4：63.6% 3：36.4%		
2	単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	4：40% 3：60%	4：45.5% 3：54.5%	教育課程と看護実践能力の構造図を示し、科目の配列を可視化している。	

<教育課程評価の体系>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	4：70% 3：30%	4：63.6% 3：36.4%	看護師に必要な基礎的能力を看護師国家試験の分析から常に研鑽し授業に反映している。科目評価（終講試験等）を単位認定会議にかけ審議している。	
1-2	単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	4：70% 3：30%	4：72.7% 3：27.3%		
2	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。	4：60% 3：40%	4：54.5% 3：45.5%	学則に定め、入学時申請科目の教育内容から既得の有無を教務会議・運営会議で審議し判断している。	
3-1	教育課程を評価する体系を整えている。	4：30% 3：60% 2：10%	4：45.5% 3：45.5% 2：9.1%	自己点検自己評価委員会規定を定め、今回学校関係者評価会議を実施し整えつつある。	評価結果における倫理規定は明確ではない。 今年度作成を予定とする。
3-2	評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	4：20% 3：70% 2：10%	4：36.4% 3：54.5% 2：9.1%		

<教員の教育・研究活動の充実>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。	4：10% 3：80% 2：10%	4：45.5% 3：54.5%	教育経験年数と臨床経験や研修等で学んだ内容を加味して教員の担当科目と時間数を配分している。 専任教員の人数不足で授業準備の時間がとれていない。	授業を担う専任教員数が不足し、経験年数が浅い実習指導教員への指導等で授業準備の時間の確保がとれにくい。 本年度より専任教員と育児休暇明けの実習指導教員が1名ずつ増員となっている。
1-2	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。	3：40% 2：40% 1：20%	4：18.2% 3：54.5% 2：18.2% 1：9.1%		

2-1	教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。	3：60% 2：30% 1：10%	4：9.1% 3：63.6% 2：18.2% 1：9.1%	教員はコロナ禍で学会等の参加が減り、オンライン研修を行っているが、自己研鑽システムが十分とはいえない。	教員の判断能力など育成する自己研鑽や相互研鑽のシステムが十分に行えていない。 教員の増員により自己研鑽の時間を確保する。
2-2	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。	3：60% 2：20% 1：20%	4：9.1% 3：63.6% 2：18.2% 1：9.1%		

<学生の看護実践体験の保障>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的・教育目標を理解している。	4：10% 3：80% 2：10%	4：27.3% 3：72.7%	年度始めに記載されている実習要項を配布している。 病院毎に実習指導者会と教員との会議を年に4回開催し、指導者とのコミュニケーションはとれている。	実践場面で教員とのコミュニケーションから理解していると思われるが、時間的余裕がないため具体的な内容は不明である。 再度施設と確認し合う。
1-2	臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。	4：20% 3：70% 2：10%	4：54.5% 3：45.5%		
2-1	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。	4：20% 3：80%	4：36.4% 3：63.6%	開校当初は役割を文書で確認し合っていたが、近年は実習場面や会議等で確認し合っているのみである。協働体制は施設などでばらつきはあるが、年度毎に話し合い改善はしている。	教員と実習指導教員の両者の役割について指導案等で再度見直す。
2-2	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。	4：20% 3：80%	4：54.5% 3：45.5%		
2-3	臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。	4：30% 3：60% 2：10%	4：63.6% 3：36.4%		
3-1	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。	4：30% 3：60% 2：10%	4：54.5% 3：45.5%	実習要項に「看護職の倫理綱領」「個人情報保護について」明示しオリエンテーションし、同意を取り交わしている。実習中、何度も実習要項を用いて指導している。	
3-2	対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。	4：30% 3：50% 2：20%	4：45.5% 3：54.5%		
4-1	臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。	4：40% 3：60%	4：72.7% 3：27.3%	各看護学で安全教育、安全対策の教育内容を入れている。事故発生時は報告書を書かせ振り返り学習をしている。	
4-2	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	4：30% 3：70%	4：54.5% 3：45.5%		

IV 教授・学習・評価過程

<授業内容と教育過程との一貫性> <看護学としての妥当性> <授業内容間の関連と発展>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	4 : 40% 3 : 60%	4 : 63.6% 3 : 36.4%	教育理念から教育課程を編成し学生のレディネスを考えた授業内容としている。	
2-1	授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。	4 : 30% 3 : 70%	4 : 63.6% 3 : 27.3% 2 : 9.1%	シラバスにて科目目的・科目目標・教育内容・教育方法を整合性があるように明記している。	
2-2	授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。	4 : 50% 3 : 50%	4 : 54.5% 3 : 45.5%		
3	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。	4 : 50% 3 : 50%	4 : 72.7% 3 : 27.3%	各看護学において横断的に教育内容を確認し、重複や整合性、発展性は日々確認している。	
4	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。	4 : 10% 3 : 90%	4 : 27.3% 3 : 72.7%		

<授業の展開過程>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1	授業形態（講義、演習、実験、実習）は、授業内容に応じて選択している。	4 : 40% 3 : 50% 2 : 10%	4 : 72.7% 3 : 27.3%	教育内容に応じた授業形態を選択している。	
2	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。	4 : 10% 3 : 80% 2 : 10%	4 : 63.6% 3 : 36.4%	各教員の授業計画等に明示し、実践している。	
3	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。	3 : 90% 2 : 10%	4 : 27.3% 3 : 63.6% 2 : 9.1%	意図的な選択は教員歴が浅い教員には難しく教員への支援が十分には行われていない。	時間的余裕がなく教員全体への支援体制が十分には行われていない。 教員を増員することで時間の確保を行う。
4	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。	3 : 80% 2 : 20%	4 : 27.3% 3 : 72.7%	状況に応じて協力体制をとっており、特に教員歴が浅い教員には支援している。	

<目標達成の評価とフィードバック>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	評価計画を立案し、実践している。	4 : 30% 3 : 60% 2 : 10%	4 : 36.4% 3 : 54.5% 2 : 9.1%	評価計画は実践し結果に基づき授業を改善している。	各教員の評価を集約できていない。 評価を集約し分析・改善につなげる。
1-2	評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。	4 : 30% 3 : 70%	4 : 63.6% 3 : 27.3% 2 : 9.1%		
2-1	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。	4 : 10% 3 : 70% 2 : 20%	4 : 36.4% 3 : 45.5% 2 : 18.2%	講義や演習、実習の評価だけでなく、看護師国家試験前には模擬試験等も含め評価し、個人の達成度も学生と共有している。	
2-2	教育目標の達成状況を多面的に把握している。	3 : 60% 2 : 40%	4 : 36.4% 3 : 63.6%		

3-1	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。	4：40% 3：60%	4：72.7% 3：27.3%	単位制の説明を入学時、個人の必要時にシラバス等で説明している。評価基準は明示し、学則に則って評価を行い単位認定会議で認定している
3-2	単位認定の評価には公平性が保たれている。	4：20% 3：80%	4：54.5% 3：45.5%	

<学習への動機づけと支援>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。	4：50% 3：50%	4：45.5% 3：54.5%	シラバス全体を見直し一貫性を持たせている。入学時や開講時には必ずオリエンテーションを行い動機付けしている。	
1-2	シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。	4：20% 3：80%	4：27.3% 3：72.7%		

V 経営・管理過程

<設置者の意思・指針>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。	4：30% 3：70%	4：45.5% 3：54.5%	本校の教育理念・教育目標は医師会立としての役割を反映したものであり、開設当初から明文化し共通理解をしている。教員の入職や異動時にはオリエンテーションを行っている。必要時には教務会議や日々のミーティングで説明し、組織の一員として統一された意思として一貫性をもたせ運営している。	
1-2	養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。	4：20% 3：80%	4：36.4% 3：45.5% 2：18.2%		
1-3	養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。	4：20% 3：80%	4：36.4% 3：45.5% 2：18.2%		
1-4	養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。	4：20% 3：70% 2：10%	4：45.5% 3：36.4% 2：18.2%		
1-5	明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。	4：20% 3：70% 2：10%	4：63.6% 3：27.3% 2：9.1%		
1-6	教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。	4：10% 3：60% 2：30%	4：27.3% 3：54.5% 2：18.2%		

<組織体制>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。	4：10% 3：90%	4：54.5% 3：45.5%	学校長・副学校長・事務長・教務課長・教務係長の組織体制で権限や役割機能を明確にしている。意思決定システムは専任教員や実習指導教員と教務会議・実習会議等で意見交換し反映させ、決定事項も周知している。	教務会議・実習会議に実習指導等で全教員が参加できないこともあり、議事録を読むだけになっている場合があることから意思決定を反映できていない場合がある。新カリキュラムとなり実習指導教員の会議に参加する時間確保もできつつある。
1-2	意思決定システムが明確になっている。	4：10% 3：50% 2：40%	4：27.3% 3：63.6% 2：9.1%		
1-3	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。	3：50% 2：50%	4：27.3% 3：45.5% 2：27.3%		

1-4	意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。	4：10% 3：50% 2：40%	4：36.4% 3：63.6%		
2-1	組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	3：60% 2：40%	4：27.3% 3：72.7%	教職員の任用は看護学の各領域を考えて行い、教員の資質を踏まえて教員間で補完し合うようにしている。教員の資質の向上に向けて教員研修等の参加を計画的に行っている。	
2-2	教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。	3：90% 2：10%	4：36.4% 3：54.5% 2：9.1%		

<財政基盤>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	財政基盤を確保することについての考え方が明確である。	4：10% 3：60% 2：30%	4：27.3% 3：45.5% 2：27.3%	財政は毎年度決算書で収支決算として予算と決算を可視化し監査を受け適正に行っている。定員 40 名から 70 名となり財政が確保でき教育の質の維持・向上に反映できるようになった。運営会議で決算書の報告があり、教務会議で主要な事項を報告し教員に周知しているが「2」の評価がある。	教員全員が決算書をみていないため財政について意見や経営・管理過程に反映していない。 教務会議で財政基盤としての決算書の説明を細かく教員に説明し、経営・管理過程に反映できるようにする。
1-2	財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。	3：70% 2：30%	4：9.1% 3：81.8% 2：9.1%		
2-1	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。	3：60% 2：40%	4：18.2% 3：63.6% 2：18.2%		
2-2	教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。	3：50% 2：50%	4：9.1% 3：54.5% 2：36.4%		

<施設設備の整備>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。	4：10% 3：70% 2：20%	4：27.3% 3：54.5% 2：18.2%	校舎も 15 年目となり学習・教育環境のハード面の整備が必要であり日々考え、管理会議で検討し、整備計画から計画的に実施している。(電子テキストとなり ipad 使用や Wi-Fi の設置、エアコン洗浄、講堂使用時の机椅子の購入、同窓会からコロナ感染対策のため医療用空気清浄機の設置等)	管理者の意図が全教員に周知できていないところもあるため、口頭だけでなく文書での提示と説明を行い理解につなげる。
1-2	管理者の考え方に基いて整備計画を立案し、実施している。	3：80% 2：20%	4：27.3% 3：54.5% 2：18.2%		
2-1	看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。	4：10% 3：50% 2：40%	4：27.3% 3：63.6% 2：9.1%	看護の教材など必要時計画的に購入している。特に実習できないような母性や小児ではシュミレーション教育が必要であり優先的に購入して整備している。	I C T についての知識や技術が不十分である。専門家の助言などを聞き進めていく。
2-2	医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。	4：10% 3：60% 2：30%	4：18.2% 3：63.6% 2：9.1% 1：9.1%		

3-1	養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生施設の整備を検討している。	3 : 30% 2 : 60% 1 : 10%	4 : 9.1% 3 : 63.6% 2 : 18.2% 1 : 9.1%	教員や学生の要望から自販機の設置や障がい者施設からの販売、婦人会からの紹介で飲食の販売など行っている。年に1回ほどアンケートをとり要望をとっている。	アンケートの内容を具体的に聞き取れていない。具体的内容から改善策を考える。
3-2	学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備の整備している。	3 : 70% 2 : 30%	4 : 18.2% 3 : 63.6% 2 : 18.2%		

<学生生活の支援>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。	3 : 90% 2 : 10%	4 : 36.4% 3 : 54.5% 2 : 9.1%	入学後 3 者面談を実施し、三年間のスケジュールの説明から学生への支援について保護者と教員で共有している。入学案内や入学前に日本学生支援機構や病院からの奨学金、県の修学資金などの案内をしている。社会人入学生には「専門実践教育訓練の給付金」の指定を受けており案内している。奨学金などのパンフレットを閲覧しやすいようにラウンジに置いている。継続できるように、休学・退学がないように学習面や生活面について指導しカウンセリングなども行っている。	
1-2	学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。	4 : 10% 3 : 80% 2 : 10%	4 : 36.4% 3 : 45.5% 2 : 18.2%		
1-3	支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。	3 : 90% 2 : 10%	4 : 36.4% 3 : 54.5% 2 : 9.1%		

<養成所に関する情報提供>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	教育・学習活動に関する情報提供を関係者（保護者等）に行っている。	3 : 90% 2 : 10%	4 : 18.2% 3 : 54.5% 2 : 27.3%	入学後 3 者面談で三年間の学習スケジュールの情報提供し、協力・支援について保護者と教員で共有している。その後は必要時電話連絡、面談等を実施している。	
1-2	関係者（保護者等）への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。	3 : 80% 2 : 20%	4 : 27.3% 3 : 18.2% 2 : 45.5% 1 : 9.1%		
2-1	看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている。	4 : 20% 3 : 60% 2 : 20%	4 : 18.2% 3 : 72.7% 2 : 9.1%	ホームページや高校訪問・ガダンス、オープンキャンパス、一日看護学生体験、Instagramなどから本校の学生の様子や校内の学習環境をアピールしている。	
2-2	広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。	4 : 10% 3 : 70% 2 : 20%	4 : 18.2% 3 : 81.8%		

<養成所の運営計画と将来構想>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	4：20% 3：50% 2：30%	4：18.2% 3：54.5% 2：27.3%	医師会立であることから看護学校事業計画を運営会議、医師会総会等で発表し意見をもらっている。	学校運営上、定員を40名から70名に増員としたが、少子化により受験生の減少となっている。今後も意見を聴き将来構想を考えていく。
1-2	その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。	4：10% 3：60% 2：30%	4：9.1% 3：63.6% 2：27.3%		

<自己点検・自己評価体制>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	4：30% 3：60% 2：10%	4：54.5% 3：45.5%	細則に規定しており自己点検・自己評価の意味と目的は明確にしている。アンケートは実施していたが、結果の分析と改善が十分ではなかった。	アンケート結果の分析ができていなく知識・方法が明確になっていない。本年度の分析から知識と方法を導けるようにする。
1-2	実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	3：70% 2：30%	4：9.1% 3：81.8% 2：9.1%		
2-1	自己点検・自己評価体制を整え、運用している。	3：70% 2：30%	4：18.2% 3：81.8%	委員会を立ち上げており、本年度より年に1回学校関係者評価委員会にて評価と改善点を明確にする。	個々には改善しているが、全体として改善点が明確ではなくフィードバックができていなかった。教育理念・教育目的・教育目標の維持・改善も十分ではなかった。今年度体制を整え取り組みたい。
2-2	自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実施にフィードバックするように機能している。	4：10% 3：70% 2：20%	4：18.2% 3：81.8%		
2-3	自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的・教育目標の維持・改善につながるように機能している。	3：80% 2：20%	4：18.2% 3：72.7% 2：9.1%		

VI 入学

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1	教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	4：10% 3：60% 2：30%	4：36.4% 3：54.5% 2：9.1%	アドミッション・ポリシーを指針として近年の高校生の学力や大学志向を考え、入学試験を面接試験と国語のみの学力試験を実施した。受験者数は近年100名以上であったが、R6年85名となり、受験者/合格者数も1.43倍から1.12倍と低率となった。学生募集をHPや学校訪問だけでなくInstagramや地域のイベントなどに参加し、ミニオープンキャンパスも2回実施し積極的に広報活動を行った。	少子化で受験生の減少は避けられないため、入学した学生には丁寧に学力と生活の指導を行っている。教員の方が疲弊ぎみとなっていることから学生指導について教員間で情報共有し、カウンセラーや学生指導教員からのアドバイスやカウンセリングをしている。教員に時間的余裕ができるようにすることも必要と考える。
2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。	4：10% 3：80% 2：10%	4：45.5% 3：54.5%		

VII 卒業・就業・進学

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	4 : 20% 3 : 80%	4 : 54.5% 3 : 45.5%	卒業時教育内容・看護技術到達度などのアンケートを計画的にとっている。国家試験の合格率、個々の獲得点数を分析・把握し教員全員で共有して各自の教育活動に活かしている	
2-1	卒業時の到達状況を分析している。	4 : 10% 3 : 90%	4 : 45.5% 3 : 45.5% 2 : 9.1%		
2-2	卒業生の就業・進学状況を分析している。	4 : 20% 3 : 70% 2 : 10%	4 : 45.5% 3 : 36.4% 2 : 18.2%	教員全員で現状を把握・分析し次年度の学生指導に活かしている。1年次より熊本の地域に根差した看護師養成について話をしている。8割以上が熊本で就職している。	
2-3	卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。	4 : 10% 3 : 80% 2 : 10%	4 : 27.3% 3 : 45.5% 2 : 27.3%	学生便覧やシラバスに教育理念・教育目的・教育目標・学年別到達目標を具体的に提示しているため周知できていると考える。	
3-1	卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。	3 : 90% 1 : 10%	4 : 9.1% 3 : 45.5% 2 : 36.4% 1 : 9.1%	病院から就職募集での来校時や実習打ち合わせ会の際、卒業生の様子を聞き把握している。	調査などの実施や体制などは十分ではない。限界もあるがアンケート実施し学校で学んだことを実践に活かしているのか再度検討する。
3-2	卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。	4 : 10% 3 : 60% 2 : 20% 1 : 10%	4 : 9.1% 3 : 45.5% 2 : 36.4% 1 : 9.1%		
4-1	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	3 : 50% 2 : 40% 1 : 10%	4 : 9.1% 3 : 45.5% 2 : 36.4% 1 : 9.1%	ホームカミングを実施し現状の把握と学校に望むことの見解を得られた。本校で学んだ知識や技術、校訓の「礼節」などが仕事上活かされているといった。離職の少なさも評価できると考える。	評価のための方法が整っていないので教育理念・教育目的・教育目標、授業の展開に活用が十分ではない。
4-2	卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的・教育目標、授業の展開に活用している。	3 : 60% 2 : 30% 1 : 10%	4 : 9.1% 3 : 54.5% 2 : 27.3% 1 : 9.1%		統計的に整理・分析し活用できるように会議で提示する。

VIII 地域社会／国際交流

<地域社会>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1-1	社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。	3：60% 2：40%	4：18.2% 3：72.7% 1：9.1%	熊本市内の中心部に位置し、熊本市医師会本会と同じ建物で、熊本市医師会病院熊本地域医療センターがあることから地域の特徴は把握しやすい立地の学校である。 看護教育活動では「地域・在宅看護論」の講義で調べ学習や防災センター見学、熊本県母性衛生学会に全員参加することで地域社会のニーズや多職種連携の学習を取り入れている。健診センター・ヘルスケアセンターの実習では健康に関する地域社会のニーズの把握とアセスメントを行っている。熊本城マラソンなど地域のイベントに医療チームとして参加している。ホームページやオープンキャンパスなどで本校の情報を発信している。	第2看護学科が本荘地区自治会や本荘小学校との地域交流の教育活動の情報を得ている。 地域内の学習・教育活動が学生の希望者のみの参加となっている。なるべく卒業までに全学生が何らかの地域交流活動に参加できるようにする。 カリキュラムを見直し教育活動ができるような時間の確保を検討する。
1-2	看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。	3：60% 2：30% 1：10%	4：18.2% 3：63.6% 2：9.1% 1：9.1%		
2-1	養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。	3：70% 2：30%	4：9.1% 3：45.5% 2：27.3% 1：18.2%		
2-2	養成所から地域社会への情報を発信する手段をもっている。	3：60% 2：40%	4：9.1% 3：54.5% 2：27.3% 1：9.1%		
3-1	養成所が設置されている地域の特徴を把握している。	3：80% 2：20%	4：18.2% 3：63.6% 2：9.1% 1：9.1%		
3-2	地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。	3：70% 2：20% 1：10%	4：27.3% 3：63.6% 2：9.1%		

<国際交流>

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1	国際的視野を広げるための授業科目を設定している。	4：40% 3：50% 2：10%	4：54.5% 3：45.5%	国際看護学は海外で活動をされた元看護教員の講師やカナダ人の英語講師に教授して頂き国際的視野を広げられるようにしている。コロナ禍以前はカナダへの短期留学や帰国子女などを受け入れ体制を整えた。また、海外へ留学予定の卒業生へシラバスより学習内容の証明を行った。 外国から医師団の交流の際、学校訪問など受け入れた。	コロナ禍以前の様な対象者がいなく、情報提供や環境が整っていない。 なるべく早期にコロナ禍以前のように体制や環境を整えていく。
2	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。	3：50% 2：40% 1：10%	4：18.2% 3：45.5% 2：27.3% 1：9.1%		
3	海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。	3：20% 2：50% 1：30%	3：45.5% 2：18.2% 1：36.4%		
4	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	3：10% 2：50% 1：40%	4：9.1% 3：18.2% 2：36.4% 1：36.4%		

IX 研究

	評価項目	R 5 自己評価	R 6 自己評価	現状の取組状況	課題と改善策
1	教員の研究活動を保障（時間的、財政的、環境的）している。	3：30% 2：40% 1：30%	4：9.1% 3：36.4% 2：27.3% 1：27.3%	オンラインの研修は十分活用しているが、コロナ禍以前のような研修等の参加者が少なく十分ではない。また、研究活動においても同様である。	臨床現場の人材育成に重きおき、支援体制が十分ではない。 教員が研修や研究活動できるように計画的に支援体制を整える。
2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。	3：30% 2：40% 1：30%	4：9.1% 3：36.4% 2：27.3% 1：27.3%		
3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。	3：30% 2：30% 1：40%	4：9.1% 3：27.3% 2：36.4% 1：27.3%		